

Follow up

会長の時間 17-“松花堂弁当”の松花堂とは何？

本日は、戦略会議の一環、クラブ奉仕フォーラムを福井副会長にコーディネート頂き、直近のバスト会長の皆さんにご登壇頂きます。卓話時間がロータリーに関するフォーラムとなりますので、今週の会長の時間はロータリー以外のお話でお付き合い願います。という事で先週の続き“向田邦子と昭和と食”の話とも思いましたが、時間がタイトとのSAAさんからのお達しあり、急遽アドリブで本日のお食事に因み松花堂弁当のお話でお付き合い願います。

この松花堂弁当という響きに皆さん何をお思いでしょうか。このお弁当は、会議やお花見、野外での簡略な茶懐石で供されるお弁当のイメージでしょうか？

このお弁当は、箱を4つほどに仕切り、その仕切った箱の中に煮物、焼き物、お刺身、揚げ物などを彩りよく揃えて入れるのが定番です。慶弔時に供される仕出し弁当の1種と思われる方があるかも知れませんが、この松花堂弁当は略式会席の料理としての用途があるという点が他の仕出し弁当とは違うところがあります。それでは、この松花堂弁当の”松花堂”とは何でしょう？ご存知の方もおいでとは思いますが実は、この“松花堂”とは人の名前です。

この松花堂の名の持ち主は、“松花堂昭乗”、江戸初期の僧侶です。大坂の堺に生まれた昭乗は、江戸期には本阿弥光悦、近衛信尹と並び寛永の三筆と称された人物。この方、立ち寄った農家の種入れ、十字に仕切り4つに分けた箱を見つけ筆入れ、絵をかくときの絵の具入れ、はたまた煙草盆として使用していたそうです。

そして後世あるときその器がある茶会に出され、その茶会に参加していたかの料亭”吉兆”の主人湯木貞一氏の目にとまります。彼はこの器を見て、この器の形に準えた物に略式会席の料理を盛り付けて弁当として出そうと考え、その名を”松花堂弁当”と名付けます。これが松花堂弁当のルーツです。ですので松花堂弁当の元祖といえば吉兆といわれる訳です。この松花堂弁当は、生まれが高級料亭吉兆だった事と、そして各料亭と称されるところがこぞって板前に作らせたため、高級料亭の作るこの松花堂弁当は、高級弁当としてのイメージがついて回るようになります。また頼んで作らせたのが、政界・財界・風流人の人々が多かったのも松花堂弁当の高級というイメージに箔をつけることになったと言えるかも知れません。

尚、この松花堂の最初の器、湯木美術館に展示されています。又、京都吉兆に松花堂店というのが京都府八幡市にありまして石清水八幡宮から車で10分位でしょうか（松花堂昭乗が出家したお寺）。そこには庭園も美術館もあり、そこでは5000円程で食べられたと思います。東京の吉兆（建物の老朽化等で令和三年一月末をもってひとまず休業）では銀座8丁目の本店では出していないはずですが、銀座2丁目の大倉ビル、1階がカルティエの角の銀座吉兆ならで8000円程で出していたと思います。

本日は急遽全面アドリブとなり、細部に不正確な所があるかも知れません。その際は、ロータリーの友情に免じてご寛恕願います。

これにて、おやかましゅうございました。